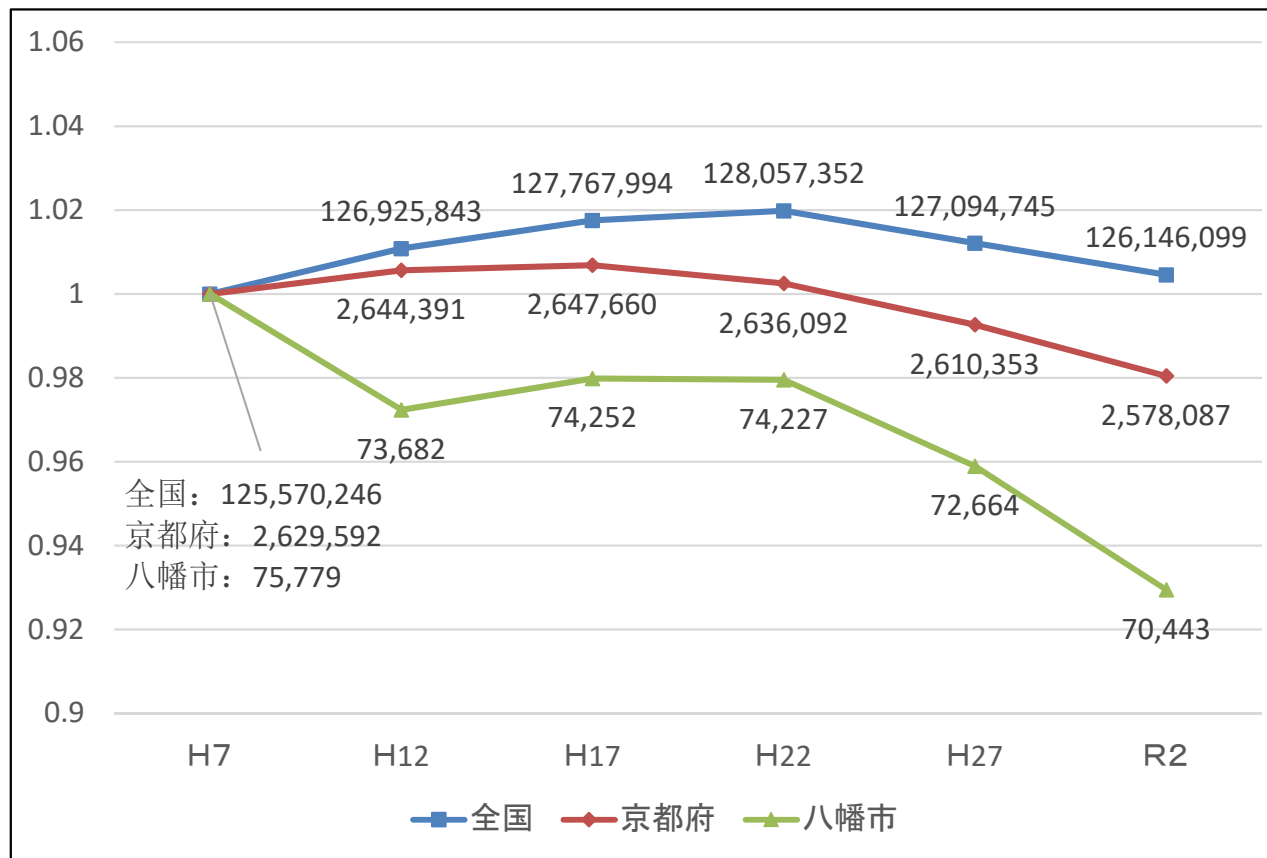


八幡市の人口について

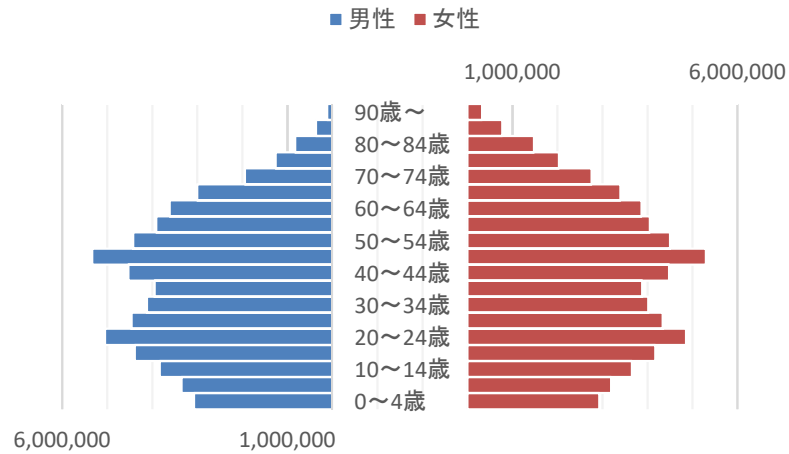
◎ 人口の推移



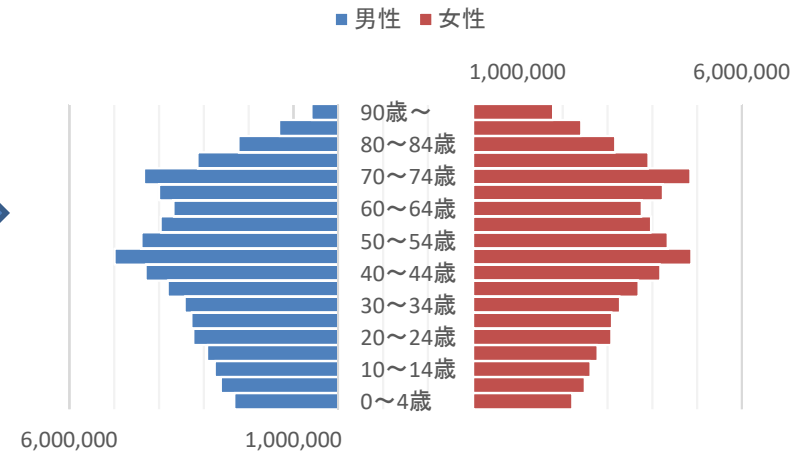
(資料)国勢調査

○人口ピラミッド

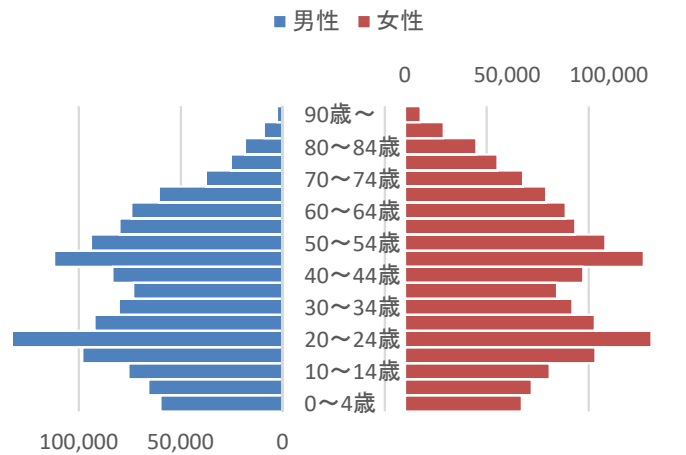
H7 全国



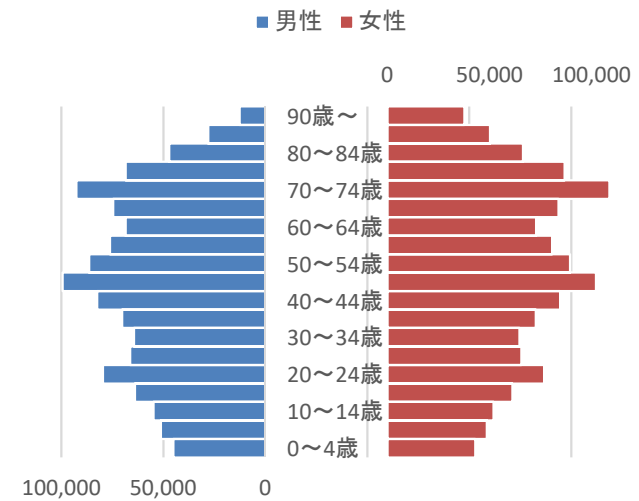
R2 全国



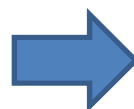
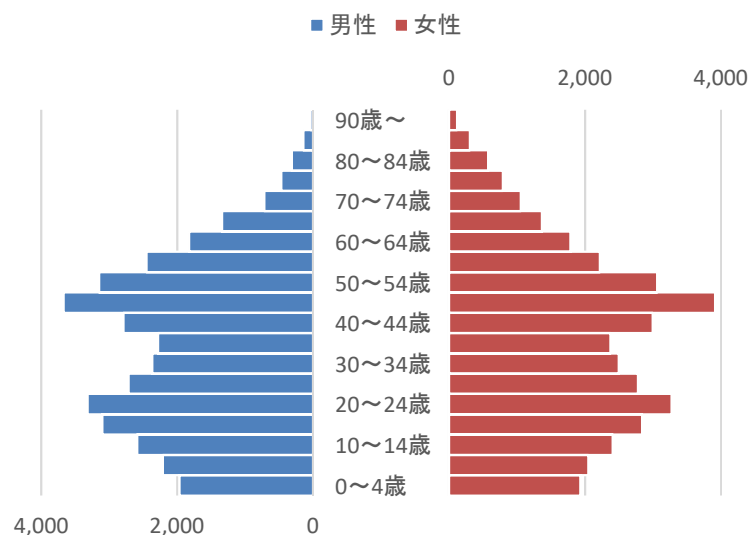
H7 京都府



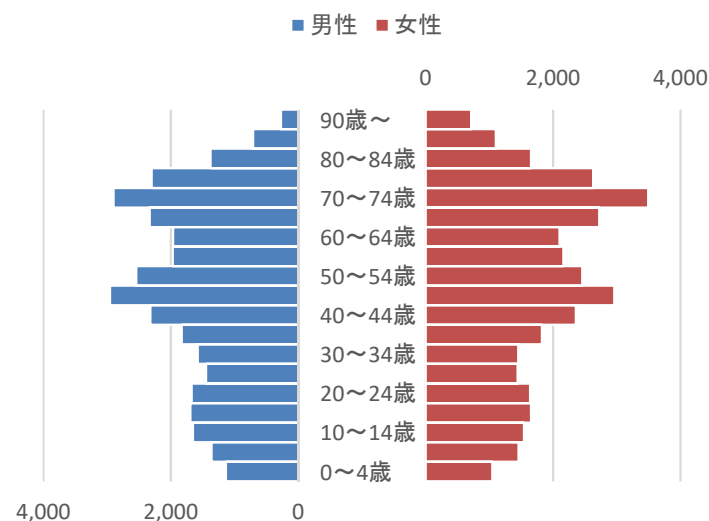
R2 京都府



H7 八幡市



R2 八幡市

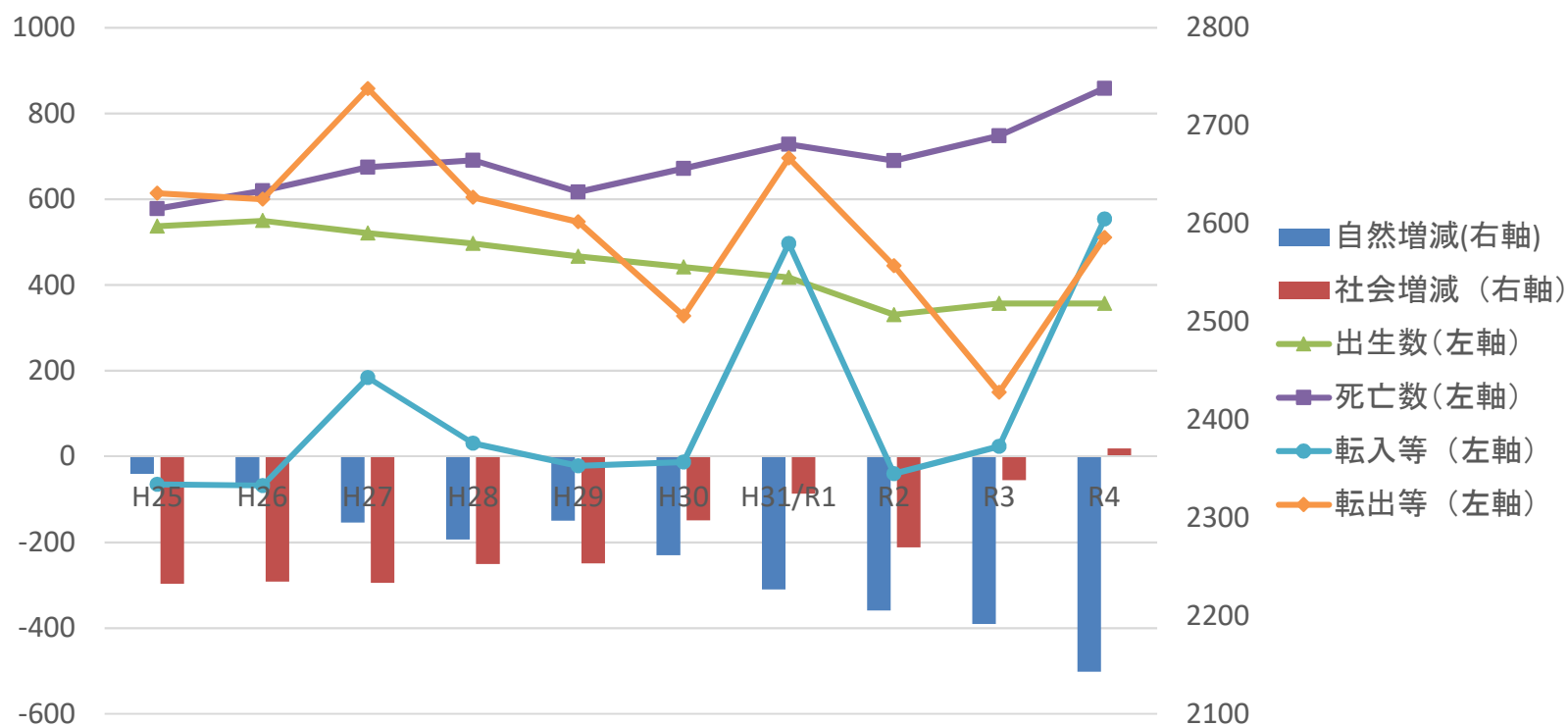


- ・ 八幡市の人口推移を見ていくと、八幡市は、平成7年をピークに減少傾向にあり、平成17年にかけて一時的な増加はあったが継続的な減少傾向にある。
- ・ 京都府の人口推移を見ると、平成17年をピークに減少傾向となっている。
- ・ 国の人口推移を見ると、平成22年をピークに減少傾向となっている。
- ・ 国、府、八幡市では、人口減少期に入ったタイミングや減少率が異なり、八幡市⇒京都府⇒国の順に人口減少期に入ったタイミングが早く、また、平成22年以降、本市の人口の減少率は全国、京都府と比較し、高くなっている。
- ・ 平成7年、令和2年の人口ピラミッドを見ると、男性・女性ともに、少子高齢化が見られる。

◎ 人口減少の要因

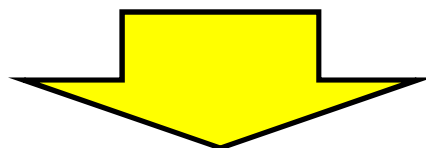
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3	R4
出生数	537	550	521	497	467	442	418	331	357	357
死亡数	578	620	675	691	617	672	728	690	748	859
自然増減	-41	-70	-154	-194	-150	-230	-310	-359	-391	-502
転入等	2,334	2,333	2,443	2,376	2,353	2,357	2,580	2,345	2,373	2,605
転出等	2,631	2,625	2,738	2,627	2,602	2,506	2,667	2,557	2,428	2,586
社会増減	-297	-292	-295	-251	-249	-149	-87	-212	-55	19

人口減少の要因別推移



(資料)住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査

- ・自然動態について、出生数はR2年で減少傾向に底打ち感はあるつつも、それ以降も低い水準になっている。また、死亡数は一貫として増加傾向にあり、自然減の状態が拡大傾向となっています。
- ・社会動態については、R2年を除き、転出等と転入等の差が縮小しており、R4年には、転入等が転出等を上回り、社会増となっている。
- ・社会動態については社会増の傾向であるが、自然動態は社会増を上回る自然減の傾向であり、人口減少は継続している。



人口減少を抑制するための課題

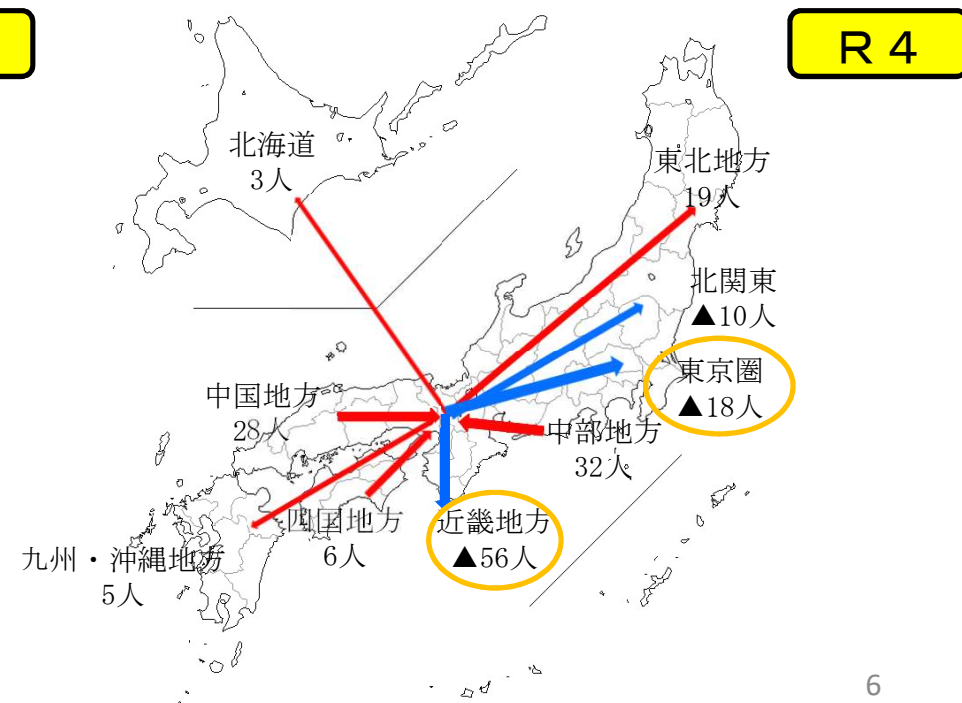
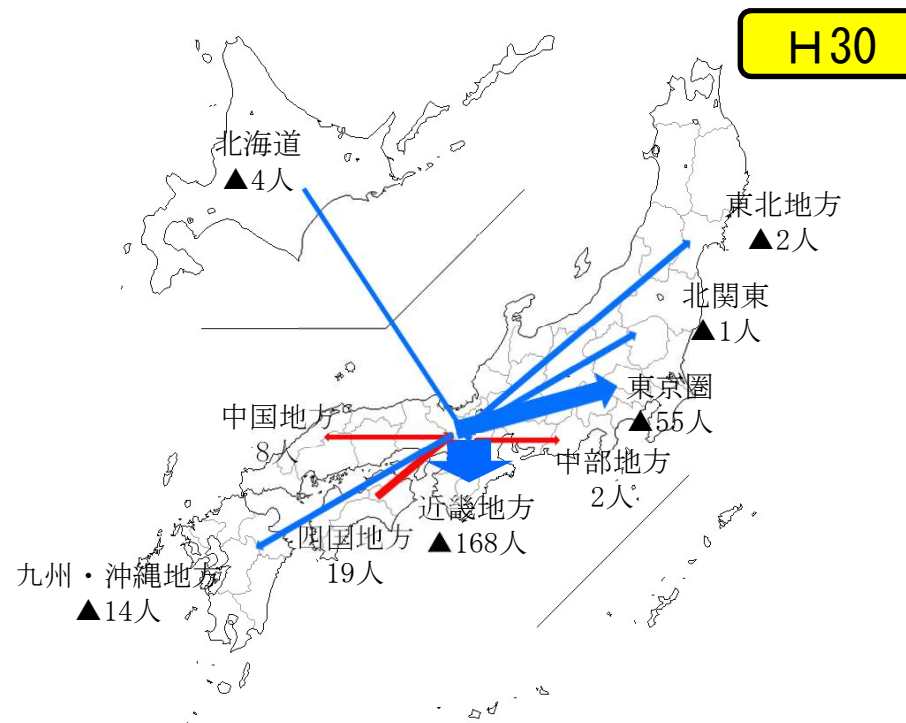
- 根本的な人口減少を抑制していくためには、人口が増加も減少もしない均衡した状態と言われる人口置換水準（2.07）程度まで、出生率を回復させる必要がある。
- 出生率の向上は、効果の発現までに時間を要するため、まずは、転入超過の状況を維持するため、社会増の状態を安定的に維持する必要がある。
- 3頁の人口ピラミッドにもあるように、20代後半から30代前半の人口が凹んでいる。出生数を増やすためには、この辺りの年齢層も増やしていく必要がある。

○社会動態

転入元(総数)					
地域	H30	H31/R1	R2	R3	R4
北海道	5	7	17	10	13
東北	20	3	11	17	31
北関東	15	13	13	25	23
東京圏	147	162	133	221	187
中部	111	111	101	110	155
近畿	1,651	1,714	1,668	1,664	1,714
中国	44	45	51	41	66
四国	35	28	24	21	28
九州・沖縄	57	62	52	70	86

転出先(総数)					
地域	H30	H31/R1	R2	R3	R4
北海道	9	12	13	18	10
東北	22	12	7	13	12
北関東	16	19	25	19	33
東京圏	202	225	197	211	205
中部	109	111	145	164	123
近畿	1,819	1,882	1,809	1,681	1,770
中国	36	61	56	52	38
四国	16	29	23	22	22
九州・沖縄	71	58	67	72	81

(資料)住民基本台帳人口移動報告



・八幡市と近畿（三重県除く）との移動状況

転入先（総数）					
地域	H30	H31/R1	R2	R3	R4
滋賀県	67	55	68	60	52
京都府	671	723	677	725	732
大阪府	755	713	761	700	744
兵庫県	87	129	89	105	119
奈良県	45	39	36	31	32
和歌山県	12	11	9	11	10

転出先（総数）					
地域	H30	H31/R1	R2	R3	R4
滋賀県	66	76	54	81	87
京都府	670	630	638	638	621
大阪府	903	982	936	784	852
兵庫県	99	126	100	95	112
奈良県	47	39	53	36	57
和歌山県	12	12	9	23	11

（資料）住民基本台帳人口移動報告

・八幡市と東京圏との移動状況

転入先（総数）					
地域	H30	H31/R1	R2	R3	R4
埼玉県	23	47	16	27	29
千葉県	20	15	18	36	20
東京都	68	78	59	66	91
神奈川県	36	22	40	92	47

転出先（総数）					
地域	H30	H31/R1	R2	R3	R4
埼玉県	33	35	31	41	31
千葉県	26	31	34	35	28
東京都	111	106	88	89	114
神奈川県	32	53	44	46	32

（資料）住民基本台帳人口移動報告

- ・ 転入、転出とも近畿圏内からの移動が最も多くなっている。転入は増加傾向で、転出は減少傾向にある。
- ・ 近畿圏に次いで、人口移動が大きい地域は、東京圏となっており、転入は増加傾向で、転出は横ばいの状況にある。
- ・ 近畿圏の人口移動の状況を見ると、転出・転入ともに大阪府、京都府との移動が大きく、特に京都府とは転入超過、大阪府とは転出超過の状況にある。
- ・ 東京圏の人口移動の状況を見ると、東京都との移動が大きく、転入は増加傾向、転出はR2、R3を除き横ばい傾向にある。

・京都府内との移動の状況

(資料)住民基本台帳人口移動報告

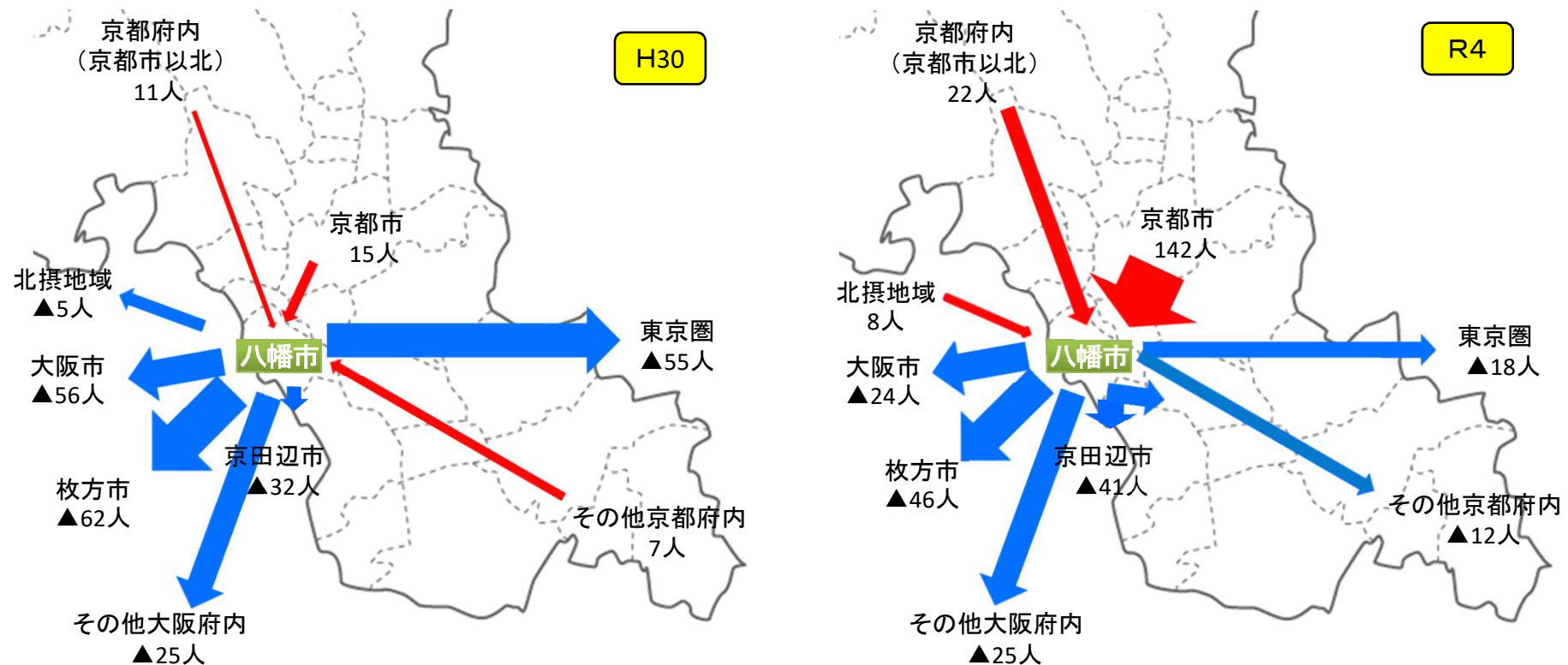
移動前（転入）移動 後（転出）の住所地	H30			H31/R1			R2			R3			R4		
	転入	転出	差引	転入	転出	差引	転入	転出	差引	転入	転出	差引	転入	転出	差引
京都市	350	335	15	411	283	128	372	295	77	439	296	143	440	298	142
福知山市	10	12	△ 2	3	8	△ 5	10	6	4	6	9	△ 3	9	6	3
舞鶴市	12	3	9	6	4	2	14	3	11	9	10	△ 1	4	13	△ 9
綾部市	8	3	5	3	2	1	2	2	0	5	9	△ 4	11	1	10
宇治市	77	61	16	84	66	18	61	78	△ 17	56	48	8	81	61	20
宮津市	1	5	△ 4	2	1	1	1	3	△ 2	0	2	△ 2	1	2	△ 1
亀岡市	11	9	2	10	3	7	14	15	△ 1	9	7	2	15	5	10
城陽市	26	27	△ 1	34	31	3	25	26	△ 1	27	39	△ 12	17	44	△ 27
向日市	12	10	2	8	5	3	11	7	4	23	9	14	6	1	5
長岡京市	19	7	12	19	17	2	18	10	8	25	24	1	35	18	17
京田辺市	57	89	△ 32	48	128	△ 80	52	104	△ 52	41	101	△ 60	63	104	△ 41
京丹後市	2	3	△ 1	3	0	3	3	9	△ 6	5	3	2	6	1	5
南丹市	6	5	1	3	3	0	3	5	△ 2	4	7	△ 3	2	2	0
木津川市	15	42	△ 27	5	21	△ 16	12	17	△ 5	15	24	△ 9	6	19	△ 13
大山崎町	10	7	3	10	8	2	8	4	4	8	7	1	4	3	1
久御山町	31	30	1	39	21	18	53	37	16	33	25	8	23	11	12
井手町	0	1	△ 1	7	10	△ 3	7	1	6	0	2	△ 2	0	7	△ 7
宇治田原町	4	3	1	6	0	6	0	7	△ 7	5	6	△ 1	0	12	△ 12
笠置町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	△ 1
和束町	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
精華町	12	13	△ 1	16	17	△ 1	7	8	△ 1	8	9	△ 1	5	12	△ 7
南山城村	1	0	1	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0
京丹波町	3	2	1	4	1	3	1	1	0	2	0	2	2	0	2
伊根町	0	1	△ 1	0	0	0	0	0	0	0	1	△ 1	1	0	1
与謝野町	3	2	1	2	1	1	0	0	0	5	0	5	1	0	1

・大阪府内（転出超過の多い団体）との移動の状況

(資料)住民基本台帳人口移動報告

移動前（転入）移動 後（転出）の住所地	H30			H31/R1			R2			R3			R4		
	転入	転出	差引	転入	転出	差引	転入	転出	差引	転入	転出	差引	転入	転出	差引
大阪府	755	903	△ 148	713	982	△ 269	761	936	△ 175	700	784	△ 84	744	852	△ 108
大阪市	140	196	△ 56	111	221	△ 110	118	204	△ 86	147	174	△ 27	174	198	△ 24
東淀川区	13	16	△ 3	13	19	△ 6	10	17	△ 7	7	12	△ 5	16	14	2
淀川区	17	12	5	12	10	2	14	12	2	11	7	4	9	12	△ 3
北区	9	19	△ 10	5	13	△ 8	6	8	△ 2	12	11	1	4	24	△ 20
中央区	3	16	△ 13	6	15	△ 9	9	18	△ 9	9	15	△ 6	17	25	△ 8
堺市	19	28	△ 9	14	16	△ 2	19	14	5	15	20	△ 5	30	28	2
高槻市	22	30	△ 8	21	25	△ 4	26	21	5	26	22	4	23	29	△ 6
枚方市	361	423	△ 62	295	439	△ 144	365	494	△ 129	317	357	△ 40	356	402	△ 46
茨木市	16	17	△ 1	13	18	△ 5	16	6	10	19	17	2	11	18	△ 7
寝屋川市	40	43	△ 3	41	66	△ 25	33	46	△ 13	24	48	△ 24	23	30	△ 7
東大阪市	17	40	△ 23	16	17	△ 1	16	28	△ 12	23	17	6	13	29	△ 16
交野市	26	23	3	11	15	△ 4	17	9	8	16	13	3	10	17	△ 7

・人口移動状況の推移（前回策定時との比較）



- ・ 京都府内の移動では、京都市が最も大きく、先の京都府の移動と同様、転入超過の傾向にある。一方で、京田辺市への転出超過はH3 1以降、縮小傾向にあるものの、転出者は100人台が継続している。
- ・ 大阪府との移動は、枚方市と大阪市が大きく、いずれも転出超過の状況は継続しているが、令和元年、2年を除き、縮小傾向にある。
- ・ 依然として、京都市や大阪市、東京圏などの大都市への人口移動の傾向が大きい状況。

・年齢5歳階級別の人口移動状況

<転出入(転入から転出を差し引いたもの)>

区分	北海道		東北		北関東		東京圏		中部		京都市		その他京都府		大阪市		枚方市		その他大阪府		その他近畿		中国		四国		九州・沖縄		合計	
	H30	R4	H30	R4	H30	R4	H30	R4	H30	R4	H30	R4	H30	R4	H30	R4	H30	R4	H30	R4	H30	R4	H30	R4	H30	R4	H30	R4	H30	R4
0～4歳	0	0	-3	0	-2	-2	9	3	2	6	13	19	0	15	3	1	2	6	8	2	-17	-22	0	3	3	1	-4	-3	14	29
5～9歳	-1	0	2	1	0	-2	8	-1	1	-5	-3	9	-1	7	0	4	-1	-8	-3	0	2	-12	3	2	2	2	0	1	9	-2
10～14歳	0	0	-2	0	1	0	1	0	-1	-5	8	4	4	0	2	5	-1	0	-5	0	-13	-8	3	1	0	0	1	0	-2	-3
15～19歳	-2	0	1	0	1	-1	-3	11	6	6	-3	-2	-4	1	-1	-2	1	6	2	1	5	3	-5	1	1	-2	5	-1	4	21
20～24歳	1	-1	3	9	-4	-4	-45	-24	8	29	-5	-4	1	-15	-15	9	-8	5	7	-8	-5	12	2	12	3	9	6	14	-51	43
25～29歳	-1	5	0	1	2	3	-15	-13	-7	7	-7	8	-20	10	-13	-10	-14	-14	-8	-11	16	-16	0	10	2	2	-8	0	-73	-18
30～34歳	-1	1	3	4	1	4	-6	-1	2	1	14	30	-4	33	-19	-8	-20	5	-14	-13	-21	-23	2	5	0	3	-7	2	-70	43
35～39歳	0	0	-3	1	-3	-1	8	9	-3	3	8	10	24	8	0	1	1	-7	-9	-1	-11	-21	-2	1	1	0	1	-4	12	-1
40～44歳	0	0	-1	1	0	-2	-2	1	-3	-4	3	9	13	8	-1	-6	15	-7	0	-5	5	-16	3	-1	1	-1	-2	0	31	-23
45～49歳	0	0	-1	1	1	0	-1	0	0	-7	10	21	17	22	1	-9	-13	-2	0	0	-12	-19	0	-1	2	-1	1	-3	5	2
50～54歳	1	0	1	0	0	-1	0	5	-3	1	-5	13	-8	-3	2	-7	0	3	1	7	3	-25	-1	2	1	-1	-1	0	-9	-6
55～59歳	0	-2	-2	0	1	-2	-1	0	-2	1	1	16	-4	15	-8	2	-5	-6	-4	-3	6	-9	0	0	1	-1	-1	-3	-18	8
60～64歳	0	-1	0	1	1	0	-1	-1	-1	-4	-2	1	-11	2	-3	-4	4	3	-5	-3	1	-8	-2	0	0	-1	0	-3	-19	-18
65～69歳	0	0	0	0	0	0	-1	-1	0	-3	-4	1	3	2	-3	1	-4	5	3	5	-2	-7	-1	-1	-1	-1	-3	-1	-13	0
70～74歳	-1	-1	0	0	0	0	-2	-1	-3	-3	-5	4	0	7	1	-1	-1	-5	-3	-3	3	-12	2	-3	3	-1	-2	1	-8	-18
75～79歳	1	0	0	0	0	0	-3	-2	-2	1	-2	5	-6	4	2	-1	-10	-5	-1	0	-1	-10	0	-2	0	-2	-1	2	-23	-10
80～84歳	-1	2	0	0	0	-1	-2	0	0	2	-4	-1	-4	-1	1	2	0	-11	2	-3	6	1	3	-1	0	0	1	1	2	-10
85～89歳	0	0	0	0	0	-1	-1	-2	0	0	-2	-1	2	-2	-4	0	-3	-11	0	0	4	-5	1	0	0	0	0	1	-3	-21
90歳以上	0	0	0	0	0	0	2	-1	0	1	0	0	-1	-2	-1	-1	-5	-3	-1	-3	3	1	0	0	0	0	0	0	-3	-8

<転出入(日本人のみ)>

区分	北海道		東北		北関東		東京圏		中部		京都市		その他京都府		大阪市		枚方市		その他大阪府		その他近畿		中国		四国		九州・沖縄		合計	
	H30	R4	H30	R4	H30	R4	H30	R4	H30	R4	H30	R4	H30	R4	H30	R4	H30	R4	H30	R4	H30	R4	H30	R4	H30	R4	H30	R4	H30	R4
0～4歳	0	0	-2	0	-2	-2	9	4	1	6	14	18	-15	-2	3	1	4	5	8	2	-5	-3	0	3	3	1	-4	-3	14	30
5～9歳	-1	0	2	1	0	-2	6	1	0	-5	-3	9	2	-2	0	4	-1	-8	-3	0	-3	-2	3	2	2	2	0	1	4	
10～14歳	0	0	0	0	1	0	1	0	-1	-4	7	4	-4	-5	2	5	-1	0	-6	0	-5	-3	3	1	0	0	1	0	-2	-2
15～19歳	-1	0	1	0	1	-1	-3	-6	3	-1	-3	-2	0	2	-1	0	0	4	2	0	2	-3	-5	1	1	-2	5	-1	2	-9
20～24歳	1	-1	3	0	-5	-5	-48	-57	-3	-4	-13	-10	7	-11	-16	-11	-8	-1	-5	-4	-10	-14	2	-4	3	0	7	-4	-85	-126
25～29歳	-1	1	-1	1	2	-1	-17	-21	-18	-11	-13	-2	-14	-5	-14	-21	-14	-13	-13	-16	8	-10	-1	2	2	0	-7	-4	-101	-100
30～34歳	-1	0	2	3	0	3	-7	-1	-4	-7	11	26	-21	-7	-23	-9	-17	-1	-19	-11	-10	8	1	4	0	1	-7	0	-95	9
35～39歳	0	0	-2	0	-3	-1	5	9	-5	4	7	11	15	-7	0	0	1	-8	-10	0	-4	-8	-2	0	1	0	-1	-3	2	-3
40～44歳	0	0	-1	1	0	-2	-2	1	-3	-4	4	8	7	-3	-1	-6	14	-7	0	-1	8	-7	3	-1	1	-1	-2	0	28	-22
45～49歳	0	0	-1	1	1	0	-1	-2	1	-7	7	21	7	1	2	-5	-14	-2	4	-1	-1	3	-1	-1	2	-1	0	-3	6	4
50～54歳	1	0	0	0	0	0	1	4	-3	2	-3	14	-2	-15	3	-7	0	4	1	8	-3	-10	-1	2	1	-1	-1	0	-6	1
55～59歳	0	-2	-2	0	1	-1	1	1	-1	3	1	13	-5	0	-8	2	-5	-6	-3	-2	7	8	0	0	1	-1	-1	-3	-14	12
60～64歳	0	-1	0	1	1	0	0	-1	-1	-1	-2	2	-8	1	-2	-4	4	4	-6	-2	0	-7	-3	0	0	-1	0	-3	-17	-12
65～69歳	0	0	0	0	0	0	-1	-1	0	-2	-4	0	7	1	-3	1	-4	5	3	5	-6	-5	-1	-1	-1	-1	-3	-1	-13	1
70～74歳	-1	-1	0	0	0	0	-2	-2	-3	-3	-5	3	6	2	1	-1	-1	-4	-3	-3	-2	-7	2	-3	3	-1	-2	1	-7	-19
75～79歳	1	0	0	0	0	0	-3	-2	-2	1	-2	5	-4	-1	2	-1	-10	-4	-1	0	-3	-5	0	-2	0	-2	-1	2	-23	-9
80～84歳	-1	2	0	0	0	-1	-2	0	0	2	-5	-1	0	0	1	2	0	-10	2	-3	2	0	3	-1	0	0	1	1	1	-9
85～89歳	0	0	0	0	0	-1	-1	-2	0	0	-2	-1	4	-1	-4	0	-3	-11	0	0	2	-6	1	0	0	0	0	1	-3	-21
90歳以上	0	0	0	0	0	0	2	-1	0	1	0	0	-1	-2	-1	-1	-5	-3	-1	-3	3	1	0	0	0	0	0	0	-3	-8

・外国の転入状況

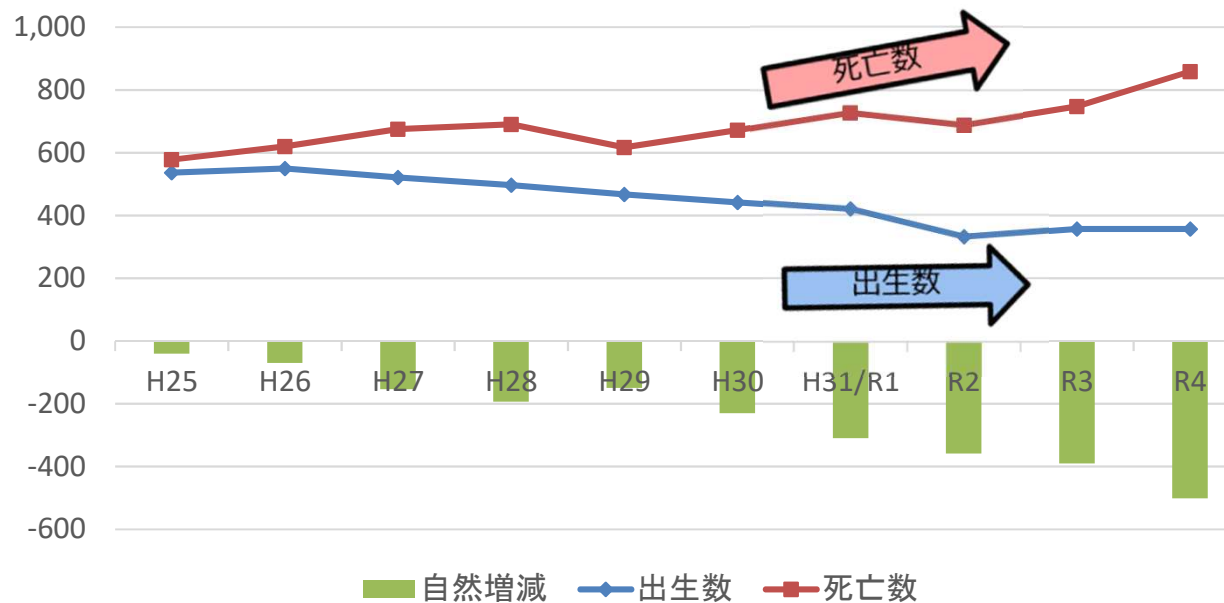
	H30	H31/R1	R2	R3	R4	計
京都府京都市	34	34	34	41	42	185
伏見区	10	11	26	17	18	82
南区	7	13	1	4	6	31
大阪府大阪市	18	32	15	27	54	146
港区	1	0	0	0	18	19
東成区	3	9	1	4	1	18
大阪府枚方市	10	26	21	20	40	117
大阪府岬町	10	59	27	0	1	97
神奈川県小田原市	0	0	0	47	8	55
兵庫県神戸市	3	23	4	8	13	51
灘区	0	19	1	0	6	26
東京都葛飾区	0	0	0	1	41	42
愛知県名古屋市	5	4	3	2	19	33
京都府久御山町	8	9	8	1	7	33
三重県いなべ市	6	19	0	3	0	28
京都府宇治市	6	2	2	4	14	28
大阪府東大阪市	5	2	5	6	5	23
愛知県南知多町	10	9	0	2	0	21
広島県福山市	1	14	0	0	3	18
岐阜県羽島市	2	10	0	0	3	15
外国人転入者	201	373	243	341	531	1,446

【転出入者の推移】

- 20～34歳について、平成30年は転出超過となっていたが、令和4年は26～29歳の転出超過が縮小、20～24歳、30～34歳が転入超過となっており、若い世代が転入している。
- 日本人のみの移動を見ると、30歳～34歳は同様に転出超過から転入超過となっているが、20～29歳は転出超過となっており、中でも20～24歳は、転出超過が拡大している。
- このことから、20歳～29歳の転入者の増加に寄与しているのは、外国人であることがわかる。
- 外国人の転入は、平成30年から増加傾向である。

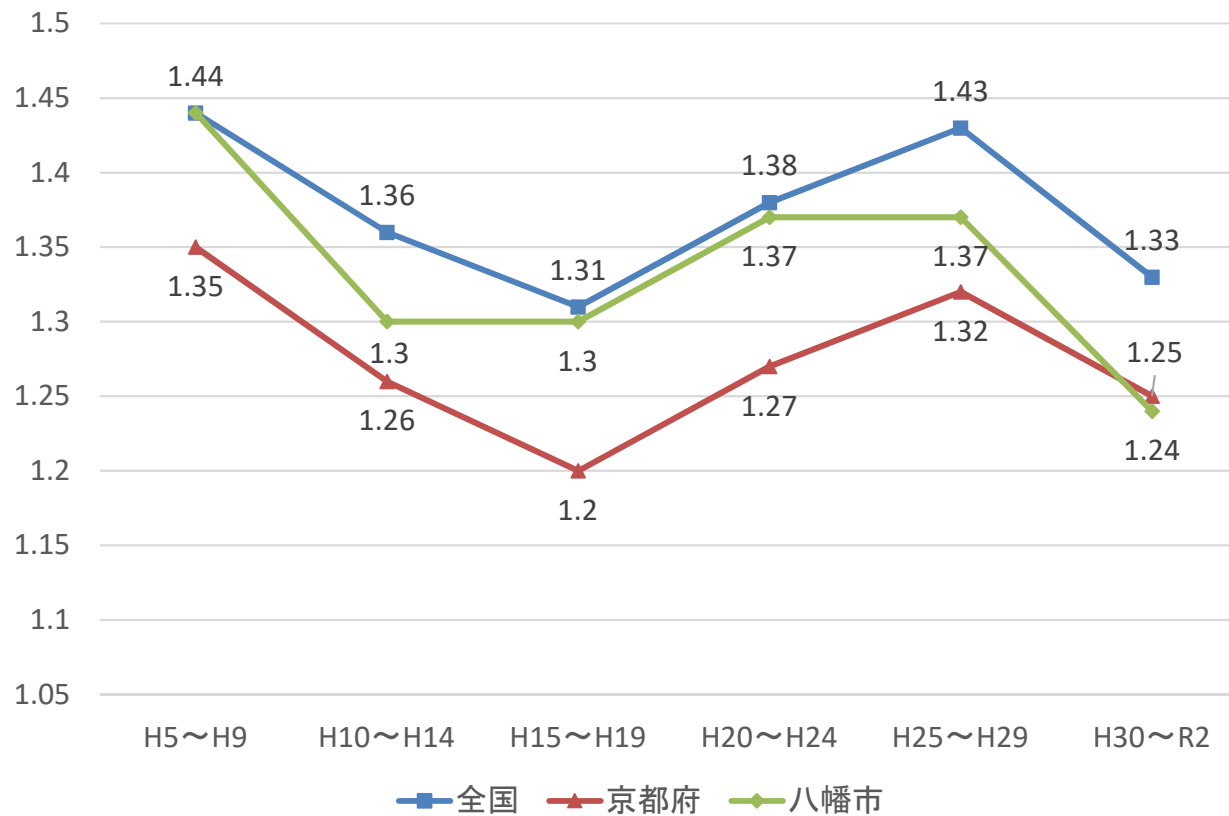
○自然動態

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3	R4
出生数	537	550	521	497	467	442	418	331	357	357
死亡数	578	620	675	691	617	672	728	690	748	859
自然増減	-41	-70	-154	-194	-150	-230	-310	-359	-391	-502



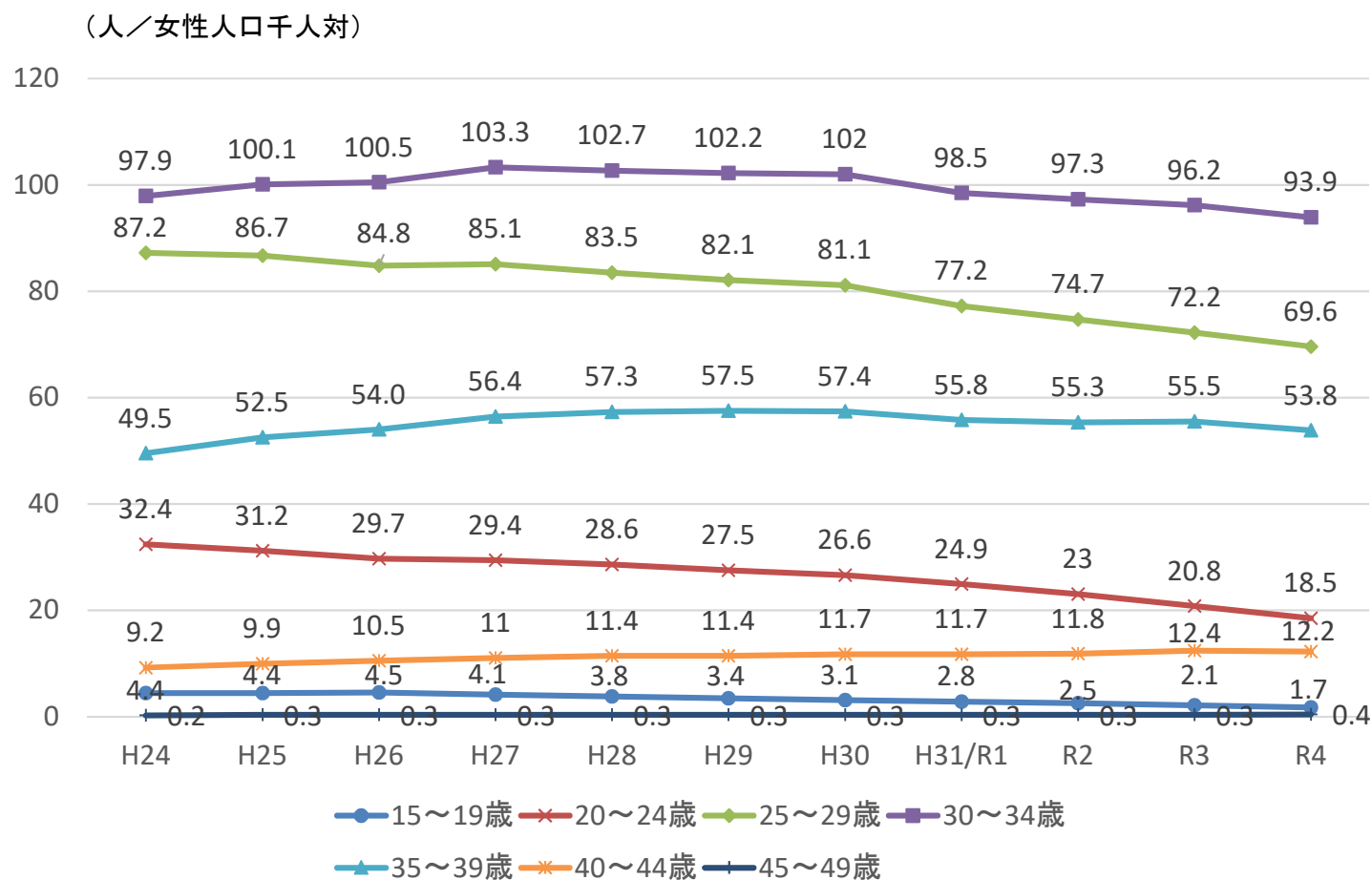
- ・出生数は、令和2年で減少の底打ちの兆候が見られるが、以降、横ばいである。死亡数は年々増加している。
- ・出生数が死亡数を下回る自然減が継続し、拡大している。
- ・上記のことから、出生数が思うように上がらない背景を探る必要がある。

・ 合計特殊出生率の推移

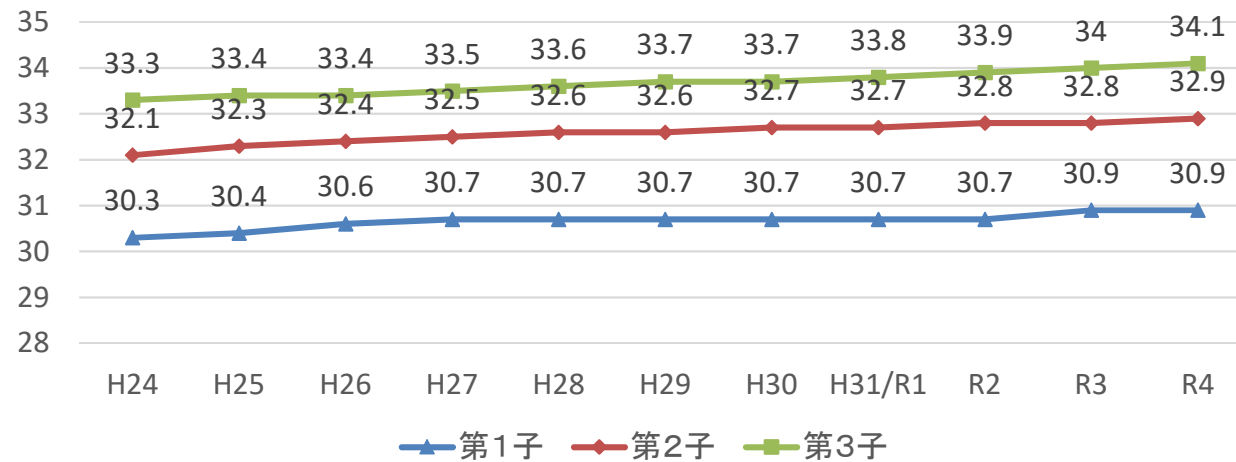


・ 合計特殊出生率は、全国、京都府、八幡市ともにH15~H19で底打ちし、回復傾向であったが、直近のH30~R2で大きく落ち込んでいます。

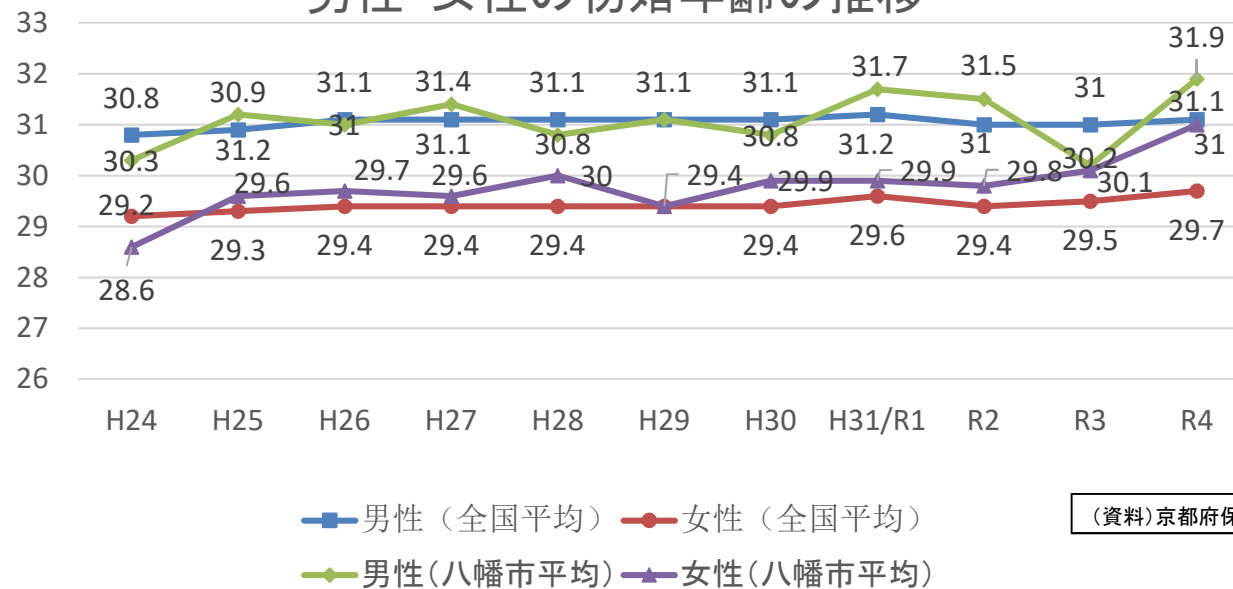
母の年齢階級別出生率の推移（全国）



出生順位別にみた年次別母の平均年齢(全国)

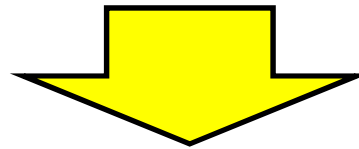


男性・女性の初婚年齢の推移



(資料)京都府保険福祉統計

- ・ 合計特殊出生率の推移を見ると、H15～H19で底打ちし、回復傾向であったが、直近のH30～R2で大きく落ち込んでいる。
- ・ 母の年齢階級別の出生率（全国）の推移を見ると、15歳から39歳までの世代は減少傾向であり、40歳以降の年齢については、増加傾向である。
- ・ 出産時の母の年齢（全国）の推移を見ると、第1子、第2子、第3子全てにおいて、高齢化の傾向が見られる。
- ・ 男性・女性の初婚年齢の推移については、男性・女性ともに初婚年齢が高くなっている。



◎初婚年齢の高齢化が、

- ① 出産時の母の年齢（全国）の高齢化
- ② 15歳から39歳までの年齢階級別の出生率の減少
- ③ 40歳以降の年齢階層別の出生率上昇

に影響していると考えられる。

第2期の「八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2～6年度）」策定後の人口の動向について（まとめ）

【社会動態について】

- ・転出超過の状況は、縮小し、転入超過にある。
- ・転入超過に寄与しているのは、若い世代の外国人である。一方で若い世代の日本人は依然、転出超過である。
- ・転出先については、府内では開発が行われている京田辺市への転出が継続している状況にある。転入元については、京都市が拡大傾向である。
- ・人口移動は、東京圏や大阪市 など大都市圏、枚方市、京田辺市など近隣エリアが多い。

【自然動態について】

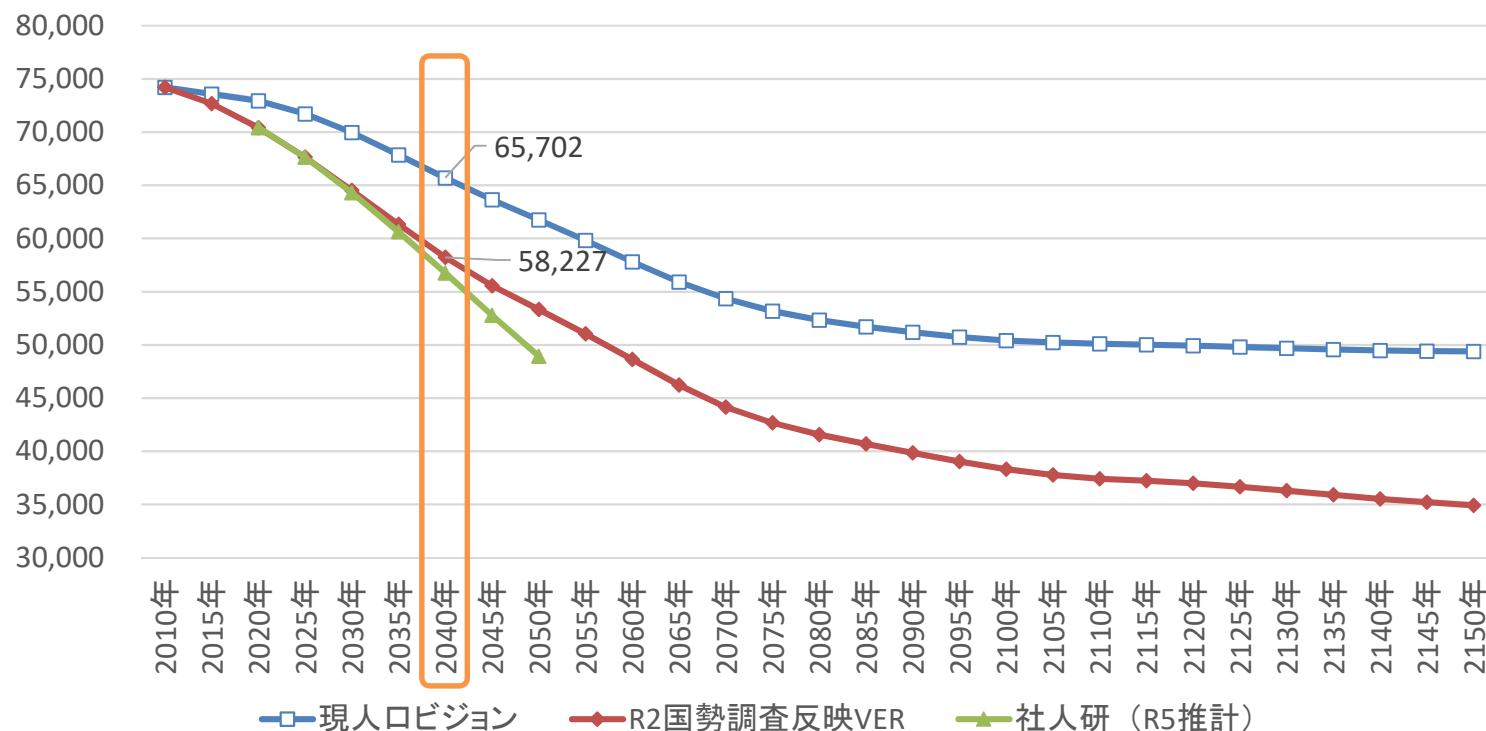
- ・自然動態については、死亡数は増加し、出生数は減少している。
- ・合計特殊出生率は、H15～H19で底打ちし、回復傾向であったが、直近のH30～R2で大きく落ち込んでいる。
- ・母の年齢階級別出生率の推移（全国）を見ていくと、15歳から39歳の出生率は減少傾向にあるが、40歳以上の出生率は、増加傾向であり、出産の高齢化が進んでいる。
- ・男性・女性の初婚年齢の高齢化、出生時の母の高齢化などが、母の年齢階級別出生率に影響しているものと考えられる。

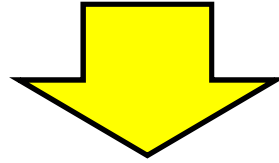
八幡市人口ビジョン（平成28年2月策定）とのかい離について

◎推計人口のかい離

八幡市独自推計の令和2年推計人口を72,952人と推計していたが、令和2年国勢調査の確定数は70,433人となっており、2,519人の減となっている。

八幡市独自推計の令和2年の人口を令和2年国勢調査の確定数（70,433人）に置き換えた場合の令和22年（2040年）推計人口は、58,227人となり7,475人の減となる。





?

令和２年２期戦略策定策定時

現時点では、平成28年2月に策定した「八幡市人口ビジョン」を下回る状況にあるが、人口ビジョンが中長期的な人口目標を定めた計画であることから、目指すべき将来人口像（令和22年（2040年）の人口目標6万5千人以上）を含め、人口ビジョンの改定は行わず、総合戦略の事業の見直しにより対応する。